



今号のトピックス

◆リレー執筆第2弾(2) “これからの看護理工学”

『看護理工学会は学問融合の場
バリアを外して協働してみませんか』

看護理工学会 理事 赤瀬 智子 (横浜市立大学大学院 医学研究科 看護学専攻 専攻長/教授)

◆第10回看護理工学会学術集会のご案内(第2弾)

第10回学術集会長 苗村 潔 (東京工科大学 医療保健学部 教授)

◆看護理工学会 創立10周年記念企画プロジェクト

企画委員会 委員長 村山 陵子 (藤田医科大学 社会実装看護創生研究センター 教授)

◆学会参加報告

参加報告1 第61回 日本生体医工学会大会
安田 圭吾 (大阪市立大学大学院 工学研究科 電子情報系専攻 前期博士課程 2年)

参加報告2 第34回 バイオエンジニアリング講演会
松浦 大星 (龍谷大学大学院 理工学研究科 機械システム工学専攻 修士課程 2年)

参加報告3 ロボティクス・メカトロニクス講演会 2022 in Hokkaido
木下 拓磨 (大阪公立大学大学院 工学研究科 電気電子系専攻 前期博士課程 1年)

◆第11回看護理工学会学術集会 開催情報

◆学会からのお知らせ

リレー執筆第2弾(2) “これからの看護理工学”

『看護理工学会は学問融合の場 バリアを外して協働してみませんか』

看護理工学会 理事 赤瀬 智子 (横浜市立大学大学院 医学研究科 看護学専攻 専攻長/教授)

私は横浜市立大学の医学研究科看護学専攻の中で、2つの分野を開講しています。1つは基礎科学的視点から看護ケアを追究していく看護生命科学分野(基礎系教員と協働)で、もう1つは麻酔、鎮痛鎮静管理を科学的に看護実践を行っていく周麻酔期看護学分野(麻酔科と協働)です。基礎と臨床の双方向から人々の健康を捉え、問題があれば明確化し、追究して社会へ還元していくことが大事だと思っています。明確化のためには、臨床調査が大事であったり、生物学、理学、工学、薬学、医学、心理学、栄養学などの各分野の知識や技術を必要とし、新しい看護ケアやアセスメント指標の確立など、問題解決や新しい看護の創造につなげていくことにチャレンジしています。看護理工学会は私にとって、理学、工学の考え、知識や技術から、学問融合の場であり、幅広い視野を持たせていただいている場となっています。

先日、ある勉強会でIPE(Interprofessional education:多職種連携教育)について勉強をする機会がありました。そこでセルフケアという普段から用いる言葉が医学では通じる言葉で

はないことに驚きました。ニュースレターNo.8の平井先生も異なる分野ではそもそも言葉が違うとおっしゃっていましたが、看護学では当たり前のよう使用する言葉でしたので、医学で通じないことに想像もつきませんでした。また、連携を行うことにバリアしているのは教員自身である、管理職ほど理解していない、というデータにもびっくりしました。もしかしたら、自分も多分野と連携しているつもりになっているのかもしれないと改めて思う機会となりました。それぞれの学問にはお互いに専門分野の独自の世界、視点や視野があると思いますが、そこでバリアを外し、従来の固定観念を払っていき、相手の学問も好きになる、お互いの価値観を理解する、互いに変えていく、時には忍耐も必要としながら、協働で何をしたいのかアウトカムを明確にし、同じ方向を向くことができれば、多くの学問と融合して人々の健康や社会の還元につながって行くための研究が共にでき、学問や社会の発展につながっていくのかもしれない。看護理工学会でバリアを外して協働してみませんか。新しい発見があるかもしれません。

第10回看護理工学会学術集会のご案内(第2弾)

第10回学術集会長 苗村 潔 (東京工科大学 医療保健学部 教授)

◆ 第10回学術集会の見どころ ◆

初日は「XRの教育応用」に関するシンポジウム、ニーズを如何にして伝えるかの当事者研究の第一人者である東京大学の熊谷晋一郎先生の特別講演、「看工連携による“ものづくり”」に関するパネルディスカッション、市民公開講座を開催します。二日目には電磁気刺激による

ニューロモジュレーションで心のケアを推進しておられるベスリ会の田中伸明先生、病院セキュリティについてPwCあらた有限責任監査法人の江原悠介先生による特別講演を開催します。看護理工学会の新しい方向性になりうる話題です。ご期待下さい。

(次ページに続く)

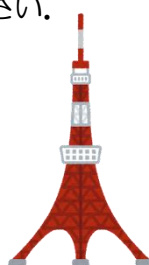
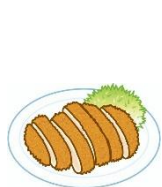
第10回看護理工学会学術集会のご案内(第2弾)

つづき

一般演題は100件を目標にして、関係する他学会にも案内しました。会員の皆様の積極的なご応募のおかげで、看護理工学会単独開催としては過去最大の演題を発表頂けることとなりました。演題登録頂き、ありがとうございました。

また、学会企画として、「看護理工学会 これまでとこれから」を二日目の午後に行ない、未来を皆様と大いに語り合えればと思っております。

学術集会は対面開催で準備しております。会場の蒲田キャンパスは東京23区を広く見渡せ、東京スカイツリー、東京タワー、新宿副都心を一望できます。是非、ご来場頂き、とんかつや羽根つき餃子などグルメもお楽しみ下さい。



↑
東京タワー

↑
東京スカイツリー

◆ 10周年記念企画 ◆

第10回という節目の学術集会をお引き受けした時点で、これまでの経緯とこれからを考える企画をしたいと考えており、理事会の先生方にキーパーソンをご推薦頂きました。

「第1部 学会のこれまで」では、真田弘美先生に学会設立の思いを語って頂き、峰松健夫先生に学会の大事な財産である論文の推移を学会編集委員長の立場からお話し頂きます。また、本学会の大きな柱の一つである看工連携を学会設立時から強力に進めてこられた山田憲嗣先生にご講演頂きます。

「第2部 学会のこれから」では、現理事長の須釜淳子先生から将来計画をお話し頂き、次世代研究者の抱負を仲上豪二郎先生、桑名健太先生にご講演頂きます。これまでを踏まえつつ、これからを自由闊達に意見交換できればと思っており、本学会の重鎮、論客の話しを受けてナビゲートする座長には、岡山久代先生、森武俊先生につとめて頂きます。

本企画により、学会活動および看護理工学分野の裾野が広がり、深みを増すことを、大いに期待していますので、会員の先生方の積極的なご参加をお待ちしております。

看護理工学会 創立10周年記念企画プロジェクト

企画委員会 委員長 村山 陵子（藤田医科大学 社会実装看護創生研究センター 教授）

◆ 企画委員会 ◆

委員長	村山 陵子	（看護理工学会 庶務担当理事）
委員	岡山 久代	
	桑名 健太	
	野口 博史	
	苗村 潔	（第10回看護理工学会学会長）
	齋藤 いずみ	（第11回看護理工学会学会長）
統括	須釜 淳子	（看護理工学会 理事長）



◆ プロジェクトの趣旨 ◆

看護理工学会は2013年10月4日に設立されました。2022年は創立10周年を迎えます。

本学会は初代理事長 真田弘美先生、副理事長 土肥健純先生による強いリーダーシップのもと、「看護学、医学、工学・理学とその周辺領域において、それぞれの専門領域を深めつつ互いに協調連携することで、新たな学術分野、ケアに貢献する新技術の創成、それらにもとづく社会への貢献」を目的として設立された、類い稀なる学会として活動してまいりました。

10年という節目を迎える年に、現理事長 須釜淳子先生よりご提案があり、プロジェクトを推進するアドホック委員会が立ち上がりました。そのプロジェクトとは、本学会の設立目的の実現に向けて行ってきた学会の諸活動の軌跡をまとめること、そして、看護理工学という学問分野に興味をもち、学会設立目的に賛同し、活動を共にしていこうと奮い立ってくださるような、領域横断的な仲間を増やせるイベントを企画し、社会にむけて本学会を周知することを趣旨としております。

◆ 企画内容のご案内 ◆

趣旨に基づき、創立10周年記念イベントを計画しています。（2022年10月～2023年10月に実施）

1) 学術集会での特別企画

第10回看護理工学会学術集会（大会長 苗村潔先生）、第11回看護理工学会学術集会（大会長 齋藤いずみ先生）にて、特別企画を実施予定。

2) 記念誌作成

内容：学会活動記録（10回の学術集会、各委員会活動として実施したセミナーなど）、学術集会長の思い出、出版物、ニュースレターほか

◆ アイデア、寄贈のお願い ◆

プロジェクトは現在進行中です。ぜひとも学会員の皆様の企画アイデア、また記念となるような秘蔵のお写真、記事などございましたら、ぜひ寄贈いただきたく、お待ちしております。

学会事務局（nse-society@umin.ac.jp）または
委員長 村山 陵子（ryoko.murayama@fujita-hu.ac.jp）まで

学会参加報告 1 第61回 日本生体医工学会大会

安田 圭吾（大阪市立大学大学院 工学研究科 電子情報系専攻 前期博士課程 2年）

2022年6月28日（火）～6月30日（木）の3日間にわたり、新潟県で開催された「第61回日本生体医工学会大会」に参加させて頂きました。新型コロナウイルス感染症は去年と一昨年と比べると落ち着き、久しぶりの対面開催であると聞いていたため、非常に楽しみにしておりました。

いざ会場につくと、会議室が10個程度あり、それぞれの部屋で様々な方が発表しておられました。私は自身の研究と関連性の高い、画像処理領域の発表を聞いてきました。ここでは最新の技術や面白い発想を持った研究者の方の発表を聞き、技術的な面は勿論、発表の仕方やスライドの作り方など、学ぶものが多くありました。ここで学んだものを残りの大学生活に活かすだけでなく、社会人になっても活かしていきたいと考えております。

また自分自身は、自身の研究「心臓手術支援のための分光反射率推定を用いたマーカ領域の面積推定」についてポスター形式で発表させて頂きました。ポスターセッションでは、発表時間になると、会場にたくさんの方々を訪れ、フリートーク形式で議論を交わす形になります。私自身は、約1時間、医療関係の方から技術者の方まで、たくさんの人に質問やアドバイスをさせて頂き、非常に有意義な時間を過ごすことが出来ました。ただ一つ後悔していることは、ポス

ターをなるべく早く貼り付ければよかったということです。ポスター発表をする場合には、貼り付け時間と発表時間、撤去時間があります。私は発表時間の約1時間前に貼り付けたのですが、貼り付け時間の際にもたくさんの方が会場に来られるため、もっと早い時間からポスターを貼り、たくさんの人に見ていただけるよう工夫をすることで、より活発な議論に繋がったのではないかと考えました。

今回の学会参加経験を活かし、今後の自身の研究や医療分野に貢献できるよう、頑張っていきたいと思っております。



学会参加報告 2 第34回 バイオエンジニアリング講演会

松浦 大星（龍谷大学大学院 理工学研究科 機械システム工学専攻 修士課程 2年）

2022年6月25日、26日に開催された第34回バイオエンジニアリング講演会に参加しました。今回の講演会は2年ぶりの対面での実施となり、福岡国際会議場で開催されました。

発表は、まず、1分間のフラッシュプレゼンテーションにより研究の概要を説明し、その後、ポスターを用いてディスカッションを行う形式

でした。私は「二軸引張試験による血管拡張ステント用生体疑似材料の超弾性特性評価」という題目で発表しました。これまで、多くの方の前で自分の研究を発表する機会がなかったため、フラッシュプレゼンテーションはとても緊張しました。また、ポスターディスカッションの際は、多くの方に来ていただくことができました。

（次ページに続く）

学会参加報告2 つづき

松浦 大星

オンラインと異なり、直接対面で一人一人の反応を見ながら発表や議論ができたため、活発に意見を交わすことで自分と異なる着眼点の発見もあり、学びを深めることができました。私の研究内容に精通している研究者から多くの質問やコメントもいただき、今後の研究に活かしていこうと考えています。ポスターの場所は研究分野ごとに指定されており、隣の発表者と研究内容が共通している部分もあったため、他大学の方とも研究について、アイデアを出し合ったり、質疑応答をしたりする交流もできました。

また、学生の発表以外にも、OSプログラムとして、大学研究者らの講演も多数聞くことがで

きました。中でも日本循環器学会とのジョイントセッションでは、私の研究対象のステントとも深く関わりのあるカテーテルの話を押聴することができ、医療応用のために、今後どちらも進化していく必要がある研究対象であると再認識し、研究に対する意欲がより一層高まるものとなりました。

今回、対面での学会参加が初めてで、参加前は不安もありましたが、自分の研究について、直接顔を合わせて楽しく話すことができる非常に良い機会となり、大変有意義な時間となりました。今回得た知識や意見を活かして、これからの研究を進めていきたいと考えています。

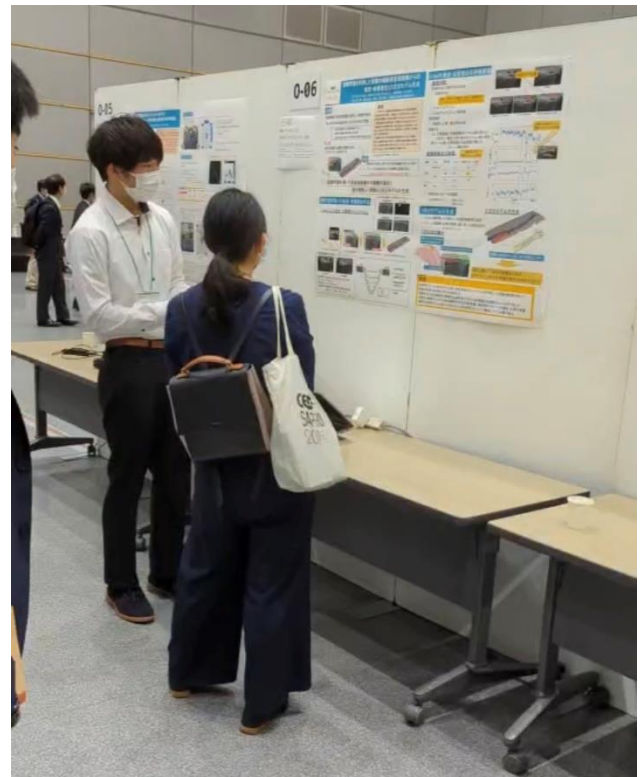
学会参加報告3 ロボティクス・メカトロニクス講演会 2022 in Hokkaido

木下 拓磨（大阪公立大学大学院 工学研究科 電気電子系専攻 前期博士課程 1年）

2022年6月1日から4日にかけて北海道にて開催されたロボティクス・メカトロニクス講演会（ROBOMECH）2022に参加させていただきました。新型コロナウイルス感染症の影響で対面発表・オンライン発表のハイブリッドでの開催となりました。私は実際に会場に足を運び会場での発表を行いました。対面での発表形式は、発表者それぞれに割り当てられたブースにてポスターを貼り出し、興味を持っていただいた方に対してポスターや実際に作成したロボットなどを用いて説明するものでした。私の「学会」という印象とは違い、興味を持った研究のブースに実際に外向き直接研究者の方に疑問に思ったことをぶつけることができる、非常にフランクに話を聞くことができる雰囲気でした。

ROBOMECHはロボットのテーマを主とした学会ではありますが、医療・福祉やバイオなどといった様々なテーマの論文が投稿されており、私は「看護とメカトロニクス」というセッションで発表させていただきました。幸いにも様々な方に興味を持っていただき、ブースに立ち説明などを行うコアタイム中では、絶え間なくたくさんの方と交流を行うことができました。研究の専門外の方から興味を持っていただくこと

も多く、客観的に見て思う純粋な疑問を投げかけていただき、違った側面での自分の研究について見直す機会になったと思います。コアタイム外の時間では自分の研究に関係した研究のブースを中心に興味のあるブースに足を運びました。



（次ページに続く）

実際に疑問に思ったことをその場で質問することで論文を読むだけでは理解できない部分などを詳しく知ることができ、自分の研究で活かせる技術なども詳しく知ることができました。

私は今回初めて学会に参加し、不安なこともありましたが、自分の研究を発表することで、

専門外の方へ専門内容を伝える難しさを感じたことはもちろん、これから研究を進めるにあたり検討していかないといけない部分など、色々な方から自分の研究に対してお言葉をいただき学びの多い学会になりました。学会にて学んだことを通じて今後の研究に活かしていきたいと思えます。

第11回看護理工学会学術集会 開催情報

第11回看護理工学会学術集会は、神戸大学で開催されます。皆様ぜひ、ご参加ください。



◆ 開催情報 ◆

学術集会長：齋藤 いずみ
(神戸大学大学院 保健学研究科 教授)

日時：2023年(令和5年)
6月10日(土)・6月11日(日)

場所：神戸大学 六甲台キャンパス 百年記念館

- ◆2022年6月 学会HPを立ち上げました！
<http://sselweb2020.sakura.ne.jp/nse11/index.html>
- ◆企業協賛へのお願い
第11回日本看護理工学会学術集会に協賛いただける企業様を募集しております。本大会の意義に、何卒深いご理解とご賛同を賜り、ご支援下さいますようお願い申し上げます。
- ◆学会事務局：kangorikounei11@gmail.com

学会からのお知らせ

看護理工学会の最新論文(9巻)は、J-STAGEで公開されています。是非ご覧ください。

J-STAGE[看護理工学会誌]
<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jnse/-char/ja/>

ニュースレター発行

広報委員会

委員長：浅野 美礼 (信州大学)
委員：大貝 和裕 (金沢大学)
内藤 紀代子 (びわこ学院大学)
二宮 早苗 (大阪医科薬科大学)
岡山 久代 (筑波大学)

看護理工学会事務局

〒169-0072 東京都新宿区大久保2丁目4番地12号
新宿ラムダックスビル(株)春恒社 学会事業内
TEL：(03) 5291-6231
FAX：(03) 5291-2176
E-mail：nse-society@umin.ac.jp